

編集後記

音楽とは人類にとって何なのでしょう。普段あまり考えることのない命題ですが、非常に興味深いテーマです。進化論で有名なダーウィンは、音楽を「人間に授かっている能力の中で最も不思議なものの一つ」とし、言葉を獲得する以前の祖先が音楽を通じて愛を伝えていたとする「性選択仮説」を提唱しました。一方で、ピンカー（Steven Pinker）は音楽を「チーズケーキ」のような存在と見なし、「音楽がなくても私たちのライフスタイルは変わらない」と述べ、生物学的には不要なものとして位置づけています。1990年代以降、音楽神経科学の研究が進み、これら2つの仮説を統合する形で登場したのが、パテル（Aniruddh D. Patel）の「トランスジェック仮説」です。この仮説では、音楽は元来、生物学的に意味をもつものではなく、あくまで「技術」として開発されたものであるとされています。しかし、その技術が人類社会に大きな影響を与えたため、結果的に生物としての人間やライフスタイルにまで深い影響を及ぼすことになった、という主張です。

現在、音楽は医療や福祉の現場でも注目され、音楽療法として広く活用されています。音楽療法は、高齢者施設での介護予防や認知症症状の緩和、子どもの発達や成長支援、不登校や引きこもりの児童・生徒へのサポートなど、多岐にわたる分野で実践されています。一方で、音楽を「奏でる側」の健康問題については、意外にも十分に注目されていません。長時間にわたる練習や演奏による反復動作や一定の姿勢が原因となり、筋骨格系、聴覚、呼吸器系など身体的な問題が

生じるほか、完璧な演奏を求められることで生じるストレスや不安といった精神的な問題も少なからず報告されています。

今月号では、音楽家特有の筋骨格系の健康問題である Musician's Hand について、酒井直隆先生にご立案いただき、外傷、腱鞘炎、末梢神経障害、変形性関節症、ジストニア、リハビリテーション、心理因子など、様々な観点から詳説を加えていただきました。その中で共通する課題は、演奏には俊敏かつ繊細な巧緻運動が求められるため、診療側にも高いレベルの治療が要求されるという点です。そういった意味では、プロスポーツ選手と類似する側面も多く、たとえば、プロゴルファーなどにみられるイップス現象は職業性ジストニアの一種とされています。また、心理因子に関する項で述べられているように、音楽家は治療効果を他の分野の人々とは異なる基準で評価し、完全に発症以前の100%の演奏ができなければ「効果がない」と判断する点も特徴的であり、これもプロスポーツ選手を連想させます。

治療に難渋する症例に遭遇することも少なくありませんが、こうした高い要求に応える医療技術の発展が、やがて一般の日常生活レベルでの手指障害の治療にも還元されることを考えると、Musician's Hand の病態を理解し、より良い治療を追求することは、極めて意義深い取り組みといえます。本特集が音楽家に対する診療の一助となり、その結果、私たちが素晴らしい演奏を享受できるのであれば、双方にとって大きな喜びとなるのではないのでしょうか。（谷口 昇）

「整形・災害外科」第68巻 第1号（1月号） 2025年1月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 47,960 円（本体 43,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。